

事務局から

▼ご承知の通り教育研究所の会員の高齢化がすすみ、退会される方々が増え、一九九〇年代中頃は700名近い会員が、現在200名を割り込むまでになっており、財政が逼迫しつつも、何とか良質の情報を提供すべく努力を重ねている。今後とも所員一同本気で会員拡大に取り組みたい。会員皆さまからの会員拡大に一層のご協力をお願いしたい。

▼希望の牧場・吉沢正巳氏の福島被災地からの報告を聞く機会を捉え、本誌に掲載した。牛飼いのいのちとともに生きてきた吉沢さんの、安倍政権の原発事故に対する無策に激しい憤りを燃やし、原発廃炉となるまでたたかう意志にいたく共鳴した。

▼ときどき宮本敏会員から、本誌の感想が寄せられる。次回から「読書欄」を企画する予定で、大いにご意見や感想など寄せていただきたい。

(内山)

編集後記

▼特集 「子どものからだと心の健康」では、山崎氏から、人類史的視点から子どもたちの発達をめぐる現状と課題について概括していただいた。また、野井氏からは、継続的な調査から、小学1年男子の「そわそわ型」の高率出現、「抑制型」の増大、「月曜朝の一層ひどいねむけ」の実態について指摘がされました。子どもたちが学び育つ環境の一つひとつに対する再考の必要性が高まってきました。

▼「子ども心の診療科」の医師である新田氏からは、子どものストレスの様子やその原因、対応策について事例を挙げて論述いただきました。子ども支援の方策として「観察」「共感」「愛着」「自己肯定」に着目することの有用性について気付かされました。

▼「Akihara森のようちえん」の実践からは、自然との触れ合いや遊びを通して、主体的に行動して自己を発達させている園児の姿が覗えました。また、それを保障する

ための職員による見守りや、「子どもの発達を見通したルール作り」「環境作り」など、意図的な営みの積み重ねが感じられました。

▼3月中旬を迎え、学びの場からは修学の気持ちや、新たな歩みについての決意が語られています。夢や希望が溢れています。志を持ち縦横に活躍する若者の姿を思い浮かべながら、その道を整える共同運動に粘り強く取り組みたいと思います。(小東)

にいがたの教育情報 No. 123

2017年4月1日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座 00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。